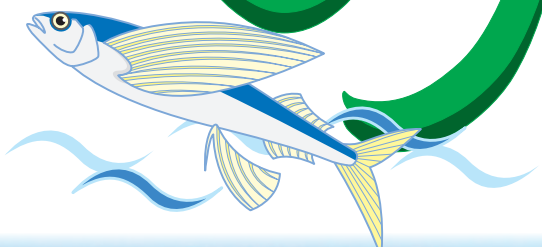


へいじろ

HEIJIRŌ



2025 秋
令和 7 年 11 月 10 日
第 75 号



種子島鉄砲祭り手踊り

もくじ

-  P1…高尾院長の講話より
-  P2…公開講座「ひざの痛み」～変形性膝関節症について～
-  P3 ～ P4…消化器外科松下先生より「胃がん」について
-  P5…リハビリテーション室より「ながら体操」の紹介
-  P6…田上容正先生より短歌の紹介／新入職員紹介
-  P7…市政の窓へ掲載してます

種子島医療センター HP はこちら⇒



高尾院長の講話より

私たちは知っているだろうか？

～ウクライナ医療の真実～

スマートフォンで目にするニュースは、遠い異国の出来事として流れ去っていく。ウクライナという国名が私たちの日常に馴染んでしまった今、私たちはその真実の、そして最も痛ましい部分を本当に知っているだろうか？

かつて、人々が病を治し、命を育む場所だった病院が、今や瓦礫の山と化している。子どもたちが治療を受けるはずだった病室に、砲弾の破片が突き刺さっている。医療従事者たちは、いつ空から爆弾が降ってくるかわからない恐怖の中、血まみれになった人々の手当てを続けている。彼らが守ろうとしているのは、単なる患者の命だけではない。それは、人間としての尊厳であり、希望という名の光なのだ。私たちは、ニュースの短い映像で、この悲劇を理解したつもりになっただろうか？ 破壊された病院の数、殺害された医療従事者の数。それらの数字の背後には、一人ひとりの人生と、癒えることのない悲しみがある。

病に苦しむ人々が、治療を受けるために何日も危険な道を移動しなければならぬ現実。戦争の音に怯え、精神を病んでいく子どもたち。手足を失い、それでも明日を生きるためにリハビリを続ける兵士や市民たち。そして、そんな彼らを支えるための薬や物資が、日々不足していくという絶望的な状況。

それでも、私たちは知っているだろうか？ 瓦礫の中で、たった一本の点滴を求めてさまよう人々の姿を。たった一枚の包帯を大切に使い回す、医師たちの苦渋の決断を。恐怖に震えながらも、患者の手を握りしめ「大丈夫」とささやく看護師の声を。

遠いウクライナの地で、医療は単なる技術ではなくなっている。それは、人間の強さと優しさ、そして決して諦めないという意志の表れだ。私たちの支援が、彼らの手に届く一本の絆創膏となり、一つの命を救う力となる。

ウクライナ医療の真実を知るとは、世界の悲劇を他人事ではなく、私たち自身の問題として受け止め、種子島の日常としあわせを噛みしめることに繋がる。私たちは、平和としあわせへ貢献する確かな医療を一步ずつ歩もう。

救急医療は二度選ぶ

「救急医療は二度選ぶ」その言葉が問いかけるものを考えましょう。

救急車を呼ぶ、その一瞬の決断。多くの人にとって、それは人生でそう何度も経験することではない、非日常的な出来事です。激しい腹痛、突然の呼吸困難、意識の混濁。自力ではどうにもならない状況に直面した時、私たちは迷わず「119」を押す。その時、私たちは「一度目の選択」をしています。自分自身の命を預ける、最も切迫した選択です。

しかし、近年、この「一度目の選択」が抱える問題が浮き彫りになっています。軽症にもかかわらず救急車を呼んでしまうケースが増え、本来に一刻を争う重篤な患者への対応が遅れる事態も少なくないのです。救急車のサイレンが街に響くたび、私たちはその背景にある医療現場の逼迫を、そして自身の判断の重さを、改めて問われているのかもしれない。

そして、救急車が到着し、搬送先の病院のベッドに横たわった後、私たちは「二度目の選択」に直面します。救急医は、限られた時間の中で最善の診断を下し、治療方針を提示します。その説明を聞き、治療を受けるかどうかを最終的に決めるのは、患者自身、あるいはその家族です。この「二度目の選択」は、必ずしも一回目と同じように緊急性を伴うわけではないかもしれません。

しかし、それは自身の身体に何が起こっているのかを理解し、今後の人生を左右するかもしれない治療に同意するという、もう一つの重要な意思決定なのです。

「救急医療は二度選ぶ」という言葉は、単なるスローガンではなく、患者一人ひとりが救急医療の現状を理解し、主体的に関わっていくことの重要性を私たちが認識する言葉です。命を預けるという受動的な立場だけでなく、自らの健康と命に責任を持つ能動的な態度。その両方が備わって初めて、私たちは本当に必要とする医療を、そして救急医療全体がより良い方向に進むための道を選ぶことができるのです。



種子島医療センター公開講座 ひざの痛み～変形性膝関節症について～ が開催されました

7月27日（日）に種子島医療センターリハビリテーション室にて公開講座「ひざの痛み～変形性膝関節症について～」が開催されました。司会の早川亜津子リハビリテーション室部長からは、当院リハビリテーション室の紹介があり、当院で提供している質の高いリハビリテーションについて知っていただく機会となりました。



今回は、定員を超える申し込みがあり、質問コーナーでもたくさん質問をいただき、皆さんの興味の高さを感じました。回答できなかった内容は、外来のモニターでご案内しておりますので、是非ともご覧ください。会場やオンラインで参加してくださった皆さん、ありがとうございました。

外科主任部長 松下 大輔 先生より

『胃がん』についてです

胃がんは世界的にみても日本人に多い消化器癌です。今回は、胃がんの病態と治療についてご説明します。

主要症状と病態は？

胃にできる悪性腫瘍を“胃がん”と呼びます。国立がん研究センターのがん統計では胃がん罹患率・胃がん死亡率ともに4番目に多い癌です。胃がんは主に慢性胃炎を背景として発生するといわれており、最も多い原因としてヘリコバクター・ピロリ感染性胃炎があります。

ピロリ胃炎は胃潰瘍を引き起こすこともありませんが、このような炎症を繰り返す中で癌が発生すると考えられます。そのため、ピロリ除菌療法を行うことで胃がんのリスクを低減させることができます。

ピロリ菌の診断にはまずは胃力メラです。胃力メラでピロリ感染を疑う所見があれば尿素呼吸試験や血性抗体価検査で確定診断を行います。

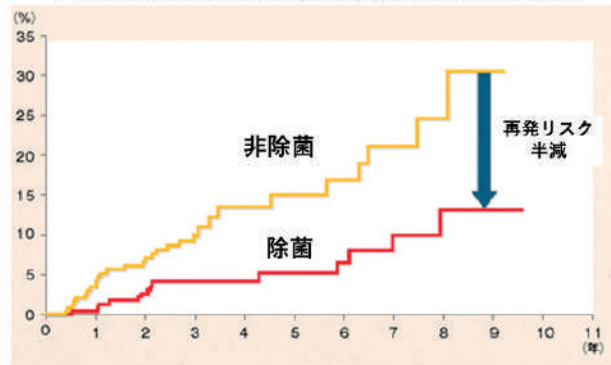
ピロリ除菌は専用の内服キットを1週間服用するだけです。

胃がんの診断法は？

胃がんの診断は胃力メラによる肉眼的診断と組織生検による病理学的診断で確定診断となります。治療方針を考える際には、その病期（ステージ）の診断が必要になります。

ステージは①腫瘍の深さ②リンパ節への転移の有無③他臓器への転移の有無を評価して最終診断します。

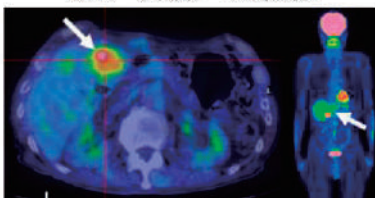
ピロリ菌除菌による内視鏡切除後の胃癌の再発率



CT: リンパ節転移



CT: 肝臓への転移

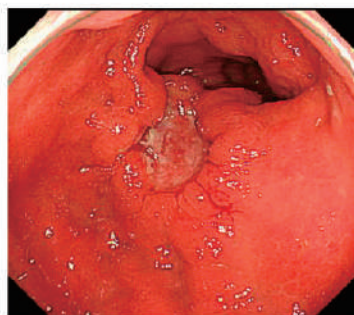


PET-CT

②リンパ節、③他臓器転移の診断は基本的には造影CTで行います。MRIやPETを追加で行うこともあります。



正常な胃



胃がん



経口内視鏡



経鼻内視鏡検査

経鼻内視鏡

①胃力メラは経口と経鼻の2パターンがあります。経鼻内視鏡の方が細いので挿入時の負担は減りますが、経口内視鏡の方が画質が良いので早期胃がんの発見などの精密な検査に適しています。

胃がんの治療法は？

胃がんの治療法は大きく分けて3つあります。

① 対症療法（緩和療法）… すべての方に行います。

例… 胃の炎症に対する胃薬の処方

痛みに対する鎮痛剤の処方。

不安からの不眠に対する睡眠導入剤の処方。 など。

② 切除療法

・ 内視鏡的切除… 粘膜内にとどまる早期がんに限ります。

・ 外科的切除（手術）… ステージ1～3が対象。

③ 化学療法（抗がん剤、分子標的治療、がん免疫治療）

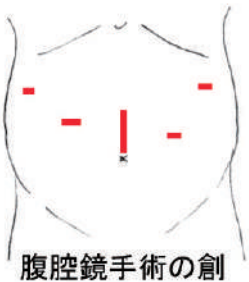
他臓器への浸潤や転移があつて手術ではすべての病巣が取り切れない場合（ステージ4）

胃がんの手術について

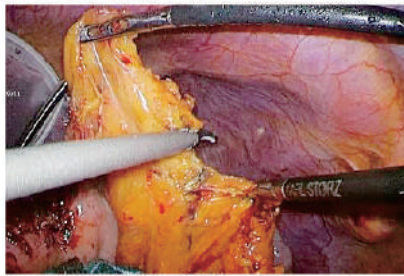
当院では胃がんの手術は基本的に腹腔鏡手術で行います。

腹腔鏡手術は傷が小さく済むので、従来の開腹手術と比べて術後の疼痛が軽くなり、結果として術後の回復が早まり、早期の社会復帰に貢献できます。

腹腔鏡手術はポートと呼ばれる筒を刺し入れて、二酸化炭素でおなかを風船のように膨らませます。ポートの太さは5～12mmです。専用の鉗子をポートから挿入して手術操作を行います。切除した胃を体外に取り出すためには、臍の上側を4～6cmの小開腹は必要になります。



腹腔鏡手術の創



当院での腹腔鏡手術の風景

胃手術に対しての当院のこだわり

以前は進行癌の場合は胃全摘術となることが多かったですが、現在は可能な限り、わずかであつても胃を残す手術を行っています。

一方で、根治切除が困難なステージ4の方でも、胃がんで胃の出口が詰まつて食事がとれなくなつてしまつた場合は、腹腔鏡下に胃空腸バイパス手術を行つて食事がとれるようにします。胃の入り口が閉塞している場合は内視鏡的にステントを留置します。化学療法を行うには栄養が不可欠ですので、これらの治療は化学療法の開始前に行います。

当院での手術成績

過去1年間の当院での胃の手術件数は10件で、すべての患者さまに対して腹腔鏡手術を行つております。非常に胃が小さくなつてしまつた方は術後の食事療法に時間をかける必要がありますが、縫合不全・出血などの大きな術後合併症は認められませんでした。

胃がんの化学療法について

化学療法は日進月歩の進化をとげています。2012年までは3種類の抗がん剤だけでしたが、以降は分子標的治療薬が導入され、新しい抗がん剤も開発されてよりよい治療効果が期待できるようになりました。近年ではがん免疫治療薬が登場し、さらに治療効果が改善されています。

たくさん薬剤がありますが、日本胃癌学会監修の胃癌治療ガイドラインに則ることで全日本でも同じ治療が受けられます。

最後に

私は当院に赴任する前は鹿児島大学で胃がんを専門に8年間の手術・化学療法に携わつてきました。各治療の最新の動向を学びつつ、患者さま一人ひとりの病状にあつた個別化治療を目指し今後も励んでまいります。

胃がんを含めほとんどの癌は進行するまで自覚症状がないことが多いです。定期的な癌検診を行い、早期発見・早期治療ができれば癌は克服できます。進行癌であつても手術・化学療法で癌を克服できる可能性は十分にあります。



リハビリテーション室より ながら体操の紹介

- ①テレビを見ながら！膝上げキープ
椅子に浅く座り、背筋を伸ばす
→片膝を上げ、20秒キープ



- ②お皿洗中に！かかとあげキープ
背筋を伸ばし、脚を肩幅に開く
→かかとを上げ、10秒キープ



- ③掃除機かけながら！ふくらはぎを伸ばす
足を前後に開き、後ろ足のかかとを床につける
→前脚の膝を軽く曲げ、20秒伸ばす



- ④デスクワークしながら！深呼吸
椅子に浅く座り、4秒かけて息を吸い、お腹を膨らませる
→4秒かけて息を吐き、お腹を凹ませる



- ⑤読書をしながら！かかとの上げ下げ
椅子に浅く座り、2秒かけてかかとを上げる
→2秒かけてかかとを下ろす



- ⑥携帯をいじりながら！足あげ
仰向けになり、片膝を伸ばす→4秒かけて、脚を反対の太ももと平行になる位置まで上げる
→4秒かけて、脚を下ろす



- ⑦音楽を聴きながら！お尻を伸ばす
仰向けになり、片膝を抱える→膝を胸の方に引き寄せ、20秒伸ばす



短歌の紹介

田上容正先生は御年90歳
先生ご自身の歌集『榕（アコウ）』より
広報誌へいじろうへの
掲載を快諾頂きました。
今回は「深み行く秋」を
ここに紹介致します。



南天の風にゆれてる赤き実が
道行く人に秋を告げおり

木漏日がさんさんとして降りそそぐ
林道を行く秋の夕暮れ

裏庭の季節はずれの桜花
うらめしそうに頭たれおり

鈴虫が夕暮れどきに鳴きそめぬ
何はばかりず命のかぎり

朝夕の気温の落差おおきくて
体蝕むビールス蔓延る

新入職員紹介



整形外科医師の^{よねざわ よしひろ}米澤 嘉紘です
出身地：薩摩川内市
趣味：筋トレ、ゴルフ
特技：競泳
単身赴任で種子島に来ているため
平日夜は暇をしています。
on call など気軽に電話ください。



中央材料室の^{いわもと かなえ}岩元 夏奈江です
出身地：西之表市
趣味：野球観戦



3東看護師の^{なかやま ゆかり}中山 由加理です
出身地：福岡市
趣味：散歩、読書
特技：健康オタクです



4階看護師の^{かわばた みずほ}川畑 瑞帆です
出身地：西之表市国上
趣味：飼い犬を愛でること
特技：犬の散歩、犬のお世話
12年ぶりにお世話になります。

あなたは大丈夫？
忍び寄る糖尿病

糖尿病を予防するには
バランスの良い食事
適度な運動
適正体重の維持などの
取り組みを心がけましょう。

もしかしたら、すでに糖尿病予備軍かも…?!

のどが渇く 尿の量が多い 飲水量が多い 発汗が多い

糖尿病外来 できちんとした**診断**を受けましょう。

公開講座
11月30日(日)10:00~11:30
「脳卒中について」
オンラインも可。
申し込みはこちらから!

社会医療法人 義順顕彰会
種子島医療センター
病院長 高尾 尊身
TEL: 0570-09-0960

当院は鹿児島大学病院と連携している
地域がん診療病院です。

早期発見・早期治療が大切です。

地域がん診療病院とは
都道府県の推薦をもとに
厚生労働大臣が
指定した病院のことです。

手術 化学療法 がんのリハビリテーション 緩和ケア 相談支援

がんに関することは、一人で悩まずご相談ください。

外科 松下 大輔

社会医療法人 義順顕彰会
種子島医療センター
病院長 高尾 尊身
TEL: 0570-09-0960

市政の窓 にも
掲載しています！
ぜひ、ご覧ください！

タメになんろーな
見らんばやろー

社会医療法人義順顕彰会
種子島医療センター

理事長 田上 寛容
病院長 高尾 尊身
〒891-3198
鹿児島県西之表市西之表 7463
TEL (ナビダイヤル) 0570-090960
FAX (代) 0997-22-1313
E-mail: master@tanegashima-mc.jp
HP: http://www.tanegashima-mc.jp/

種子島医療センター 理念
**島民の皆様に愛され
信頼される病院**

私たちは、思いやりの心と
技術を研鑽する真摯な姿勢で
豊かな地域医療の向上に努めます。